いずみ
発行所
福井県大野郡
和泉村公民館
印刷所　松浦印刷所

奥越総合開発促進期成同盟会生る

取り残されている奥越地方の開発を促進するため客年十二月二十七日大野市に於て、大野市、和泉村、西谷村の関係者たちが集って期成同盟会が結成された。今度「いずみ」編集委員会はこの奥越開発と当面の諸問題について村長と対談した。

A　奥越総合開発という事が盛んに言われますが、これはどういう目的ですか。

村長　新聞紙上には北陸開発法という事が叫ばれている様に、九頭竜川流域にも下流地方にはそれぞれの開発組織が出来ている。九頭竜川上流、真名川地方にはこの様な組織もなく、従って取り残されている様な状態であるので、昨年の様な災害の根本対策の早期樹立と洪水調節のための多目的ダムの早期建設、荒島隧道、笹又隧道、観光資源、地下資源、森林資源の開発、工場誘致、越美線開通促進などがこの会の目的です。

C　ではこの会の構成はどういう様な方々が加わっていられますか。

村長　会長は知事、副会長は関係市、村の長、地元選出の衆参議員県議会議長を顧問、市、村の議長副議長、各常任委員長、農協長、森林組合長、観光関係団体長、中竜鉱業所長、漁業組合長、助役等が会員となっています。このうち当村からは役員として理事五名、監事一名が互選されています。

B　只今荒島トンネルの話がありましたが、昨年秋、朝日中学の生徒が知事に陳情している記事を見ましたが可能性はあるのですか。

村長　荒島トンネルは総合開発の目標にあり知事も非常に乗気になつて居ります。今度上京し建設省へ陳情しましたが、何しろ長さ四・五～五Kで自動車一車線の幅にしても三～四億円かかり、それを二車線の幅にすると約十億、途中岩盤の良いところを所巻工事をやらずにおいても七億はかかる予想なので、建設省としても容易なことではないらしい。その実現は、奥越の電源開発をやることになれば現在の国道の改修に要する金を企業社が負担し、残額を公共事業でやることが一番建設省でも希望している。又道路公団で工事をやり有料道路にして完成する方法もあるが、これは現在の交通量では問題があるらしい。更に今北陸三県で話し合つている北陸開発法を立法化し、その中でやるにしても立法化に二年以上はかかるらしい。

C　建設省と道路公団とどちらが可能性がありますか。

村長　今のところでは双方とも早期実現ということは一寸むずかしいと思いますが、若し電源開発が早期決定すればこの方も早期に実現するかと思います。今度上京して電発、北陸支社両方へ寄つてトンネルの話をしたところ、両方共早速測量にかかると云つていました。

D　電源開発の方は現在どの様になつていますか。

村長　一口にいうと相手方が決まらないので突込んだ話が出来ないのです。知事も私達も早くやるのか、やらないのか決める様話をして来ました。只災害の復旧もせずに県は早くダムが出来ればよい様な事を新聞で見たので、その問題は県と話をし災害とダムは別に考える様要求した。

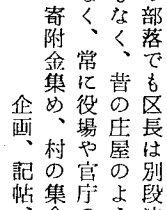
通産省でも早急に決定したい様ですが、現在電発と北電との話合いがつづけられ、早ければ五～六月おそくとも今年中には、適地か不適地か、やるか、やらぬか、やるとなると誰がするか決まると思います。

A　越美線はその後どうなつていますか。

村長　越美線は期成同盟もあり運動を続けていますが、昨年十月に勝原～朝日間の測量の受渡しをする様になつていたのが災害のためお流れになつてしまつた。然し朝日までは決定していることに違いありません。それと勝原までの開通が困難なような事が書いてありましたが、それはデマで今年の秋には開通することになつています。

荒島トンネルについて知事に陳情する朝日中学生たち（昨年11月9日）

区長36年の林西之助氏（下山）



林さんは今年数え年八十一歳であるそれでも自転車で朝日まで往き来し、冬の雪道でも大野市まで出かける元気さである。

身長五尺八寸、頑健な体格で、若い時から重い病気にもかからず極めて明るい性格で大声で話し、その笑声は荒島山にこだまするほどである。この林さんはつい最近まで、下山部落の区長を三十六年間つとめた。県下でも珍しいことに相違ない。

大正十年丁度林さんが四十三歳頃から七十七歳まで引続いてその任に当り、その間下山の学校だけでも改築、増築移築など三回もあり、林道の延長、橋梁の架替用水、開墾等々業績が多いだけに随分骨の折れたことと思う。林さんがこのように長い間区長の任にあつたことは全くこの人の誠実さが区民の絶対信頼となつたためであろう。事実林さんは初対面から心の置けない人である。常に明るい気持と厚意的に応待して相手をうたがうようなことはなく、部落の事についても策を労するとか、かけ引で処理するようなことは絶対しない。常に自分の利を後にし部落のことを優先して真剣に心配して来たことが区民の信頼をつなぐことになつた。

この道三十年

林さんは区長ばかりでなく、村会議員も三期、消防団の小頭、戦後の遺族会長も十年つとめて来たその外部落の道場坊主も一昨年まで四十年近く、お寺の門徒総代、氏神のねぎ職から部落の婦人会長ばかりではない。

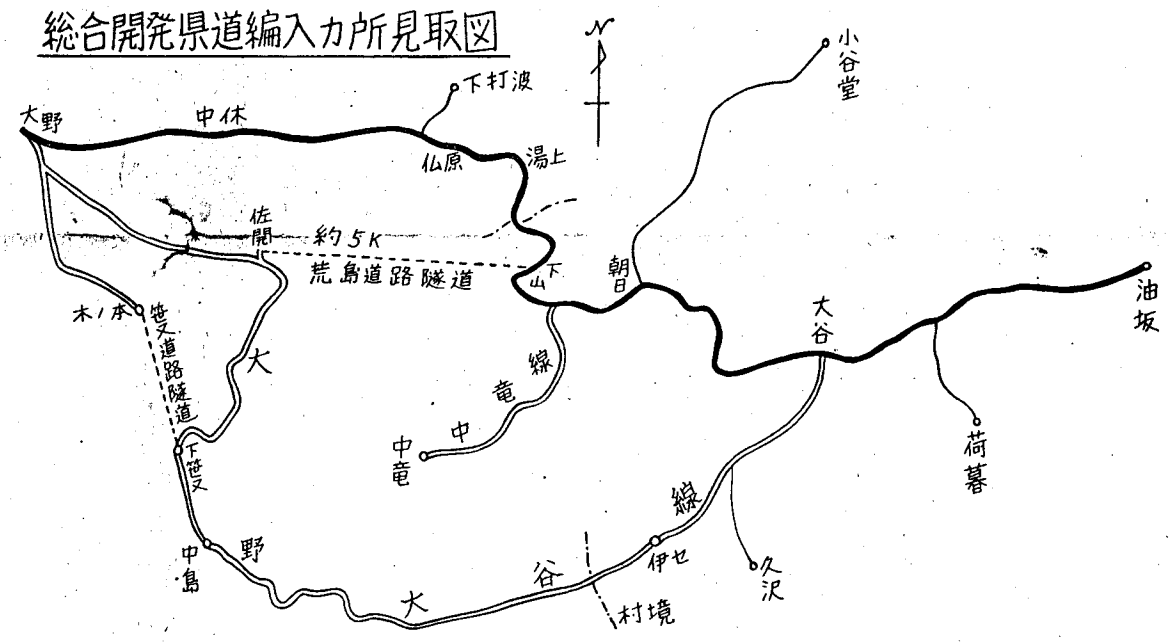
既に三十数年前に後継者である長男は幼ない孫をおいて夫婦共に病没し、また戦時中は次男を戦場で国家に捧げている。片手と頼む妻にも早く死別して、人生のあらゆる苦難は人並に受けてきた。而も物事にくよくよしたり、利欲で悩むようなことがなく、何時も明るく朗らかな気持で生活している林さんが区長の時、他部落から下山の大統領と呼ばれたのは、部落の方々が林さんのおつしやること、することは間違いないという心からの信頼の状況を端的にいつた言葉で、全く林さんの人格を裏付ける呼名であつたと思う。

まで三カ年もつとめており、実に部落の公的な仕事は全部一身に負つてひたすら奉仕につとめて来たとなると誰がするか決まると思います。

何処の部落でも区長は別段法的な権限もなく、昔の庄屋のような権力もなく、常に役場や官庁の事務連絡、寄附金集め、村の集会、企画、記帳、会計、何から何まで一人で処理し学校、役場を初め部落を訪ずれる来客の応待に当らねばならぬ。

下山は県下での深雪地、それに道は危険な崖道で林さんも通行中雪崩で川につき込まれたこともあつたが奇跡的に助かつた。このように林さんの生涯は好都合なことばかりでなく、不幸の連続であつたが、それを克服して来た精神力は全く驚嘆に値する。

総合開発県道編入カ所見取図



民生委員改選

民生委員の任期が満了になり、次の方々が任命されました

カツコ内は担当区

田中才次郎（東市布、上半原）
木島スエノ（下半原）
坂下重三郎（荷暮）
田中　美好（池ガ島、箱ガ瀬、持穴）
永瀬　八郎（大谷）
若山　源造（野尻、影路）
三島　亦二（伊勢、米俵）
尾崎　啓義（久沢）
古世与市郎（長野、鷲）
森尾　正（板倉、角野）
原　五百里（上大納、下大納）
伊東　滉（中竜）
谷与右衛門（下山）
朝日　秋子（朝日）
平野よし子（川合、貝皿）
米倉外太郎（伊月、後野）
平瀬　金松（角野前坂、朝日前坂）
木島　政雄（三面、小谷堂）

公民館強調目標

公民館活動にみんなで参加しましょう。

公民館の活動は年中いたしますが、今が一番参加し易い時です。囲碁も楽しい。謡曲に声をはりあげて歌うのも、仏花の手ほどきを受けるのもよい機会です。時局に目を開きましょう。編物講習も今がよい。農業講座で去年の反省をして本年の計画を立てるのもよい。このほか生活の改善、文化生活の向上の為に、老若男女を問わず、昔の吉崎の面の話の様にならない様に気楽に、家中交代して、こぞつてみんなで公民館活動に参加しましょう。

林業お知らせ

今年第一次伐採許可申請書の提出は今月中にお忘れなく出して下さい。

伐採届出書は伐採前六十日前に三通林業改良指導員に出して下さい

初の民生委員会開催

十月十五日改選後始めての民生委員会が役場で開催され辞令の交付や役員の選出が行われた。役員氏名は次のとおり。

会長　田中　美好
副会長　原　五百里

民生委員協議会会長
田中　美好

此の度和泉村民生委員協議会に於て、不肖私許らずも会長に選任致されまして誠に恐縮感銘するのみでございます。元より浅学菲才到底その器でございませんが、皆様方の御心熱い御言葉に甘んじ微力ながら御受けさせていただきました。何卒今後宜しく御指導御鞭撻の程を伏して懇願申上げます。

さて私達民生委員に課せられた職務は民生委員法第十四条に

①一、常に調査を行い生活状態を審かにして置くこと。

二、保護を要する者を適切に保護指導すること。

三、社会福祉事業施設と密接に連絡し、その機能を助けること

四、社会福祉事業法に定める福祉に関する事務所、その他関係行政機関の業務に協力すること

②民生委員は前項の職務を行う外必要に応じて生活の指導を行うと規定されています。

申し上げるまでもなく私達民生委員はこの重責である処の担当区内の人々のことによく気を配り、いろいろな方法で知つている様努力しなければなりません。この民生委員に選ばれましたことに思いをいたし、先人の言動を範としてこの責任を全うしたいと思います希くば関係御当局は勿論、村民の皆さん方の絶大なる御指導御協力の程を偏えにお願いするものであります。

お知らせ

納税欄

固定資産税　四期分
保険税　四期分

災害のため家屋、土地の減免申請の出してない方は早く出して下さい。

農業欄

麻を作るには県に対し免許申請書を出さなければなりませんので、作る方は二月上旬のうちに役場で手続きをして下さい。

集ひ（こんぼん）

今年も最早一カ月がすぎて今年から小学校の一年生になるお子さんをお持ちの父兄の方等何かと色々気にかかられる事だろうと思います。

昔から「三つ児の魂百まで」とか云つて子供の時の精神はその子の人生に大きく関係があると思われ又子供のしつけのむずかしさが云々されるのもそれ故であろうと思います。そこで今月はある主婦の手記を見ていただきたいと思います。

玄関に出た私は又かと思つた。六歳になる千鶴子と三歳になる徳男の運動グツなのですが、小さいわざと道の悪い所を通つて来るのでしょう。お姉ちやんのくせに徳男を少し見習いなさい。物を大切にしない子には何にも買つて上げません」

奥から出て来た千鶴子は黙つて下をむいてポロポロ涙をこぼしていました。傍で徳男までが下をむいて泣きそうにしているので「徳男は利口ね、何でも買つて上げますよ」

と云いながら千鶴子をにらみつけたのでした。翌日買物のため外に出ると丁度近所の奥様と一緒になり意外な事を聞きました。

奥様は「お宅の子供さんは姉弟とても仲が良くてうらやましいわ昨日用事があつて幼稚園に子供を迎えに行き、お宅の千鶴子ちやんと徳男ちやんと一緒になつたんですよ。千鶴子ちやんが徳男ちやんの手を引いて仲良く歩き乍ら道が悪るいでしよう。雨がつづきましたからね、道の悪い所に来ると千鶴子ちやんが、自分は道の悪い所を通つて、徳男ちやんにきれいな道を通らせるのです。手を引いてやつてね。どうしてもきれいな道がないと自分が徳男ちやんをおんぶしてね。道の良い所まで連れて行くんですよ。自分は泥んこになり乍らね。ほんとうに仲良しのうらやましい御姉弟ですね」

その時のこの私の気持、あんなに叱つた自分の浅はかさ、何とおろかな母だつたろう。どうしてあの時やさしく「千鶴子ちやんの靴だけどうして汚れるのかしら」と聞いてやれなかつたのかしら、良い事をしたのにと千鶴子は思つただろう。おんぶなんかしてもらつたのが悪かつたかなと思つたであろう。昨日の二人の様子を思い出してこの愚かな母は神仏に深くおわびしたのでした。いつのまにかすつかり秋もふかまつて肌寒いこの頃、早く二人にセーターを作つてやらねば……と心楽しく店へ急いだのでした。

寄宿舎に入つて

東中三　杉山利彦

新しい寄宿舎がやつとできたので僕達も入る事ができる様になつた。今から三カ月間続くので、みんなと仲よく、一生懸命に勉強して、寄宿舎に入つたかいがある様にしたいと思つている。

朝六時三十分に起きる。始めはねむかつたが今ではなれた。起きると室や廊下の掃除をして朝の仕度だ。朝外へ出たらとても気持がよいと思つた。食堂は真白な机に班ごとに向つて朝の食事だ。朝ご飯がすむと朝の自習が始まり九時二十分前まで勉強する。

学校がすむと寄宿舎に帰る。大きな室に大さなこたつがあつて、新しい畳の上に太陽がさし込んでいて明かるい。友達はスキーに行く者もあり、雑誌を読む者もある。風呂のある日は友達と入浴する。水がシヤアシヤアと出てとても便利だ。家の風呂も水がこんなに出る様にするとよいと思う。

夕食がすむと夜の自習時間だ。毎月実力テストがあるので一生懸命に勉強する。九時三十分には寝る事になつているが、実力テストの前の日は消燈をもつとのばしてもらつてがんばつた。ねる時は父母の顔を思い出した。おやすみなさいといつてふとんにもぐり込んだが一寸淋しい。

土曜日に家へ帰ると家の者に寄宿舎の事を話す。家の者は規則正しい生活をしておくと社会へ出てからも為になると言う。日曜に寄宿舎へ帰つたら暦や写真などを持つてきてはつたので、室がきれいになつた。お金は月の始めに三百円ずつ担任の先生にあずけておいて、必要な時にもらつて来る事にしている。むだ使いをしない為だ僕はみんなで協力してあと三カ月無事にすごしたいと思つている。

寄宿舎生活

東中一　田中健子

一月七日、私共の待つていた寄宿舎生活の第一日が始まつた。日曜日には家へ帰れるのに家をでる時は何だか淋しかつた。

十二畳半の室の真中に大きなこたつがあつて青い畳のきれいな室だ。荷物を整頓するとやがて校長先生がお話をしてくださつた。

第一、火の用心。第二、仲よく協力する。第三、規律正しく。第四、落付いて勉強。第五、不平をいわずの五つです。そして寄宿舎には仏様がないからねる時は、家の方へ向いて父母にお休みなさいといつてねることになりました。夜の自習時間は二時間です。もし寄宿舎がなければ、往復二時間以上もかかるのに歩く時間だけ勉強ができるのだから本当に幸せだ。寄宿舎へ入つたためか、私は一月の実力テストの成績が前よりもよくなつたので嬉しい。今からも寄宿舎の規律をまもつてしつかり勉強し、立派な寄宿舎にしたいと思つている。

保健所だより

脂肪食と食生活

国民の食生活は近年相当に改善されてはきたが、まだ米食偏重の傾きがあり、脂肪やビタミン、ミネラル等がいちじるしく不足している。ことに冬は、体温を保つためにも脂肪を十分にとることがのぞましく、特に寒い地方や冬山などには最も効果的であるから、なるべく脂肪分の多い獣鳥肉や魚類をとることはもちろん、野菜なども油いためや揚げものにする等、冬生活につとめて脂肪をとり入れるようすすめる。

風花句会初会抄

伴俊孝

冬帽を掴み脱ぐさえ現場癖
おとろえぬ筆勢うれし師の賀状
猪俣信也

鉱石を撰る一指浮かして屠蘇つげる
沈黙も親し寒梅逆さに下げ
俺を燗らせ冴えたネオンの骨あらし
木下いさを

距離のない闇にレール陽を蓄め反射鉱員
叱かられて触手へ逃げこみ「イナイイナイ」
乱層帯に発破壁に逆かさな一九六〇

松橋紀代二

ストーブに過去の木枯鳴つて燃ゆ

部落探訪

中竜鉱山の由来

大正三年東部鉱区の一部小萩鉱山を三菱鉱業株式会社が買収する事となり、鉱業代理人として当時面谷鉱山長重松養二氏、氏家久四郎氏、当村谷口市太郎氏現場担当に依り銅、鉛を採掘し、面谷鉱山製煉所に送鉱三カ年間継続、大正五年末休山す。

大正十三年四月、小萩鉱山三菱鉱区を兵庫県人小林輔太郎氏、上大納谷口市松兩氏に依り話合いの結果同鉱区を買収し、比鉱採掘をなし、簡易選を建設し亜比酸製造販売をなし、大正十四年市価直下事となり大正十五年八月十九日入山、八月二十一日草分け開山する事となり、谷口市松氏現場担当探鉱に取係り、鉱業代理人として武生の人瀬尾昭氏入山、上大納氏と共に調査をなし、両者意見一致して経営上の調査を一週間大野、治氏藤田組より入山す。会計係として斎藤氏十二月入山、探鉱する事約八カ年間にて従業員七十名以上を使用し、初期の目的を達成した田哲太郎氏の紹介状にて谷口市松二カ年間会社組織に関し休業し、昭和九年五月二十五日、日本亜鉛鉱業株式会社の創立となり同年六月一日事業開始の運びとなつたのであります。直ちに採鉱準備選鉱場の施設等を完了し、翌年十二月一日操業開始となり、日産粗鉱百二十トンの処理する事となり順調に仕事が進んだのであります。

昭和十一年二月二日大雪の為突然内尾谷より大泡襲来し来り役員住宅、社宅、倉庫、医局、事務所等を襲い風岡所長以下三十七名の遭難者を出し、内十七名は殉職儀性となつたのであります。而して業務は一時中絶状態となつて居りましたが、続いて同十一年三月十四日、選鉱場裏山より大雪崩の為選鉱場全部埋没され大被害を受けたのでありますが、神岡鉱業所幹部佐藤久喜氏始め山元へは石原寿人氏外数十名の応援あり、当時中竜従業員の並々ならん努力に依り翌十二年に至りては三百二十トンの増産設備を完了するに至つたのであります。

斯して日本亜鉛会社の中竜鉱業所は創業期に於て多くの犠牲と苦心を払つたが経営は順調に運んで来たのであります。

昭和十六年春、三井鉱山株式会社と中村房次郎氏との間に話合いの結果、三井資本の提供を受ける事となり、中村氏に変り三井の子会社として技術、その他の援助を得る事となり精鉱製品は一手に三井選鉱製煉所に送鉱する事にしていましたが、終戦後三井鉱山の解体と共に同社を離れて完全に独立したのであります。この独立時代も戦後経済変動の衝撃を受けて経営難に陥り、会社幹部の努力も空しく昭和二十四年八月七日一時休山の已むなきに至つたのであります。

昭和二十五年八月、三井鉱山の由来概要を申上げまして終りと致します。

（おわり）

選挙管理委員会のお知らせ

村の選挙管理委員が改選になり次の方が委員となられました。

委員長　大谷　小沢賢
委員　荷暮　三島喜一郎
〃　朝日　朝日啓太郎
〃　上大納　吉岡淳

一月十日検察審査員候補者の抽せんが行われました。

候補者　中竜　田中七郎
〃　朝日　山田秋子
〃　中竜　藤井よし子
〃　下半原　森田米造
〃　貝皿　谷口権太

部落別の基本選挙人名簿の数がまとまりました。

部落名	男	女	計	部落名	男	女	計
布原	24	28	52	倉日合皿月野坂	20	19	39
原喜島瀬穴谷尻俵勢沢野	53	45	98	坂朝川貝伊後野日	93	97	190
市半半ガガ	95	100	195	前前面堂山納納竜	27	25	52
半	52	64	116	谷大大	22	20	42
東上下荷池箱持大野米伊久長角	21	24	45	小下下上中計	7	11	18
	33	31	64		41	48	89
	44	45	89		15	21	36
	90	87	177		15	18	33
	60	65	125		13	11	24
	26	28	54		23	17	40
	55	64	119		65	72	137
	51	50	101		16	13	29
	30	26	56		75	87	162
鷲野	15	17	32	計	463	316	779
	14	17	31		1,554	1,470	3,024

人のうごき

【出生】

下半原　林小織　定夫長女
〃　横山勝己　正雄長男
野尻　佐藤敬介　武雄長男
伊勢　山田道雄　秀雄二男
朝日　金巻龍一　龍雄長男
下山　西和行　久雄四男
中竜　磯田理恵　政儀長女
〃　三好由美治　長女
〃　木下岳暁勲　長男

【婚姻】

○富山県中新川郡上市町柳瀬信夫　金巻喜美子
朝日　林義夫　巣守マツノ
○大野市不動堂　後野　木屋晋　吉岡弘子
○角野　大野市中荒井
○福井県足羽郡足羽村羽川　一枝下山　西とみ子
○野尻　宮原仁　名古屋市千種区　加藤韶子
○岐阜県郡上郡二日町小池　正人東市布　中村多亀子
○持穴　西倉貞夫　持穴　長谷川美恵子
○福井県大野市横　福田利行　下出よしゑ
朝日　若山裕　板倉　森尾美代子
○野尻　鎌倉章
○伊勢　滋賀県野洲郡野洲町小嶋　愛子
○大谷　永瀬和太郎　野尻　大牧タマ
○箱ガ瀬　池田源治
長野県南佐久郡八千穂村　吉岡豊子
○下半原　中山冨士夫　宮原弥栄
朝日　林藤市
○上大納　福井県鯖江市下小路町倉辻幸子
○上大納　川中栄
福井県大野市土打　中山美津子
○中竜　青山昭
〃　大谷巴
〃　義江芳則
〃　川嶋きくゑ

【死亡】

箱ガ瀬　山本久松　五八歳
持穴　長谷川虎之助八三歳
久沢　野村松之助　八六歳

益々盛んな囲碁熱

福井新聞社楯争奪戦は一月十日大谷に於て、公民館長楯争奪戦は一月十五日朝日に於て、中日新聞社楯争奪戦は一月十五日大谷に於て百数名のテング揃いで盛大をきわめた。

福井新聞社楯　中山重治
二位　野村秀夫
三位　田島丈治
公民館長楯　大辻一郎
二位　朝日牧雄
三位　島田巌
中日新聞社楯　藤田喜三
二位　池田澄剛
三位　永瀬治

成人を迎えるにあたつて

三浦忠男

昔の人達の話によりますと、戦争時代は二十歳に達すると「徴兵検査」が実施され、長い人間生活に於ける第一の「ステップ」がここにあり、一人前の社会人として世間に認められたと言われております。私が生れてからちようど二十年になり、いわゆる最初の大きな「ステップ」に直面したのですがここまで育てて下さつた両親、社会の人たちの数知れぬ恩に深く感謝すると共に、いままでばく然と過して来た私だが、成人としての責任に決意を新たにしている。

無条件に上の人の言うことを聞かなければならなかつた兵隊の生活、ここでは道徳と便宜とが同居していたかも知れない。

これに比較して現在の二十歳には直接きたえられる様な関門がなくなり、表面上は「なんとたるんでいるだろう」と思わせる二十歳がいるかも知れない……。少くともそういうことをたびたび耳にします。親の同意なくして出来る結婚、それに禁煙がとかれる。それよりももつと大事な事は、選挙権が得られる。私はこれらの問題に対して社会人としての行動を果し青年らしい理想と夢をもつて前進したいと思います。